

「企業の森づくり」中村川流域植樹セレモニーを開催しました （西北地域県民局の巻 その48）

令和5年9月5日（木）、一般社団法人日本木造分譲住宅協会（東京都）、一戸農林株式会社（つがる市）、つがる森林組合（鰺ヶ沢町）及び県の4者が締結した「青森県森林づくり協定」に基づく企業の森づくり「植樹セレモニー」が10月5日（木）、鰺ヶ沢町中村町の一戸林業株式会社所有の伐採跡地において開催されました。

県では、森林整備を社会全体で支える取組として、企業や団体等が社会貢献活動として森林整備を行う「企業の森林づくり」を推進しており、今回は令和4年8月の大雨災害で甚大な被害を受けた中村川流域内で開催されることから、中村川流域治水緊急対策推進協議会の緊急対策メニューに位置付け、舞戸小学校4年生31人を含む地元町内会や関係者ら約70人が参加し、スギの苗木を植樹しました。植樹セレモニーに参加した児童たちは、「意外に植えるのは簡単だった」、「大きく育ってほしいです」、「なかなかできない体験。植樹が土砂崩れなどの災害を防ぐことにつながればうれしい」などと話していました。また、令和4年8月の大雨災害で自宅が床上浸水の被害にあった参加者は、「われわれは、大きな工事ではできないが、せめて植林で協力できれば。災害の軽減につながればと思う」と話していました。

一般社団法人日本木造分譲住宅協会の木原理志事務局長は、「木材（人工林）を切って使って植えて育てるこのサイクルが大事。今回の植林によって過去の水害のようなことが起きないようにになれば良いと思っています」と話していました。今回の伐採跡地には、およそ8,500本のスギの苗木が植えられました。



開催場所位置図



植え付けの状況



記念植樹

中村川流域治水緊急対策推進協議会って何でしょうか？

おべ様：令和4年8月9日からの大雨では、中村川が氾濫し、特に下流部の鰯ヶ沢町市街地では、甚大な浸水被害が発生したおん。はんで、町、県、国などの関係機関が集まって中村川流域治水緊急対策推進会議を立ち上げて、浸水被害をなくするために、流域治水の考えに基づいてさ、緊急対策メニューを定めてさ、今後、概ね10年間で対策メニューを実施するんだって。

中村君：ふ〜ん、流域治水の考え方ってなんだべ？

おべ様：水害や土砂災害などにさ、堤防整備、ダム建設・再生などのハード対策をやってけで、流域全体のいっぺだ関係者が参画して災害対策を推進していくことだべさ。最近は、たげいっばだな豪雨災害などが頻発しているはんで、ハード対策と水害リスク情報の発信や自主防災組織の設立などのソフト対策をあわせて、みんなで防災対策をしねば災害を防げねだおん。

中村君：んだよな。最近の雨は強烈だはんでな。流域治水って流域のみんなで地域住民の命と暮らしを守る取組なんだべな。地域住民みんなの理解と協力が大事だべな。

おべ様：まんずそのとおり。さすが中村君。勉強してらな。

中村君：して、具体的な対策はなんだべ。

おべ様：緊急対策メニューを8つ定めて、協働して今年からまんず10年間で実施していくことにしてて、林業関係だば小規模伐採や複層林などや多様な森林整備とか、必要に応じて崩壊地の復旧のために、早急な植生導入などをやって土砂流出の防止を図るなどの対策（山腹工や治山ダム工など）ば進めることにしてるんだね。

中村君：ふーん、たげだ対策があるんだな。

おべ様：ほがにも田んぼダムや雨庭、河川改修、水害を踏まえた町づくりの検討、水害リスク・河川情報の充実、地域防災力の強化などいっぱいあるずや。詳しくは、青森県河川砂防課のホームページに載ってるはんでな。

中村君：へば、ちょっとホームページで見てみるべか？



治山ダム工



複層林



山腹工

「環境公共」ホームページ <https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noson/kankyokoukyou.html>